2004.2.18

The Japan Academy of Midwifery Newsletter No.43

日本助産学会ニュースレター

発行所　日本助産学会
〒102-0071
東京都千代田区富士見１－８－21
東京都助産婦会館内
電話・FAX　03－3221－0417
e-mail: jam1987@ninus.ocn.ne.jp
代表者　堀内成子

巻頭言

これからのお産のあり方を考える

㈳ 日本助産師会　事務局長
岡本　喜代子

平成13年度から「健やか親子21」の国民運動が開始された。４つの主要課題や10年間に実現すべき到達目標が明らかにされ、その実現を目指して、「健やか親子21」推進協議会が設立された。各自治体や専門団体等が具体的な行動計画を基に活動を展開している。

その第２課題として、「妊娠・出産の安全性と快適性の確保と不妊への支援」が打ち出され、特に、快適性の視点が新たに見据えられ、病院等に浸透しつつあることは、誠に喜ばしいことである。

日本助産師会は、「健やか親子21」推進協議会の第２課題の幹事団体として、関連団体とともに、３ヶ月に１度程度の会合を持ち、関連主要テーマに関して検討している。この会合を通じて、助産師と産婦人科医師や新生児科医師との意思疎通の機会が得られたことは相互の理解を図る上で、非常に大きな意義があると考える。

また、最近の新聞（2004年１月15付け朝日新聞）で、『これからは、診療所では妊娠中の健診のみを行い、お産は大病院で集中して行うべきである』という考えや「よい産院の10ヵ条」が厚生科学研究『産科領域における安全対策に関する研究』（主任研究者中林正雄）の中間報告で紹介された。

周産期死亡等の改善のための対策としてこの10ヵ条は、いずれも重要な項目であるが、どちらかと言うと、産婦人科医師中心の考え方に偏っている傾向があると思われる。

「お産は大病院で」という時、助産所の扱いも診療所と同様と思われる。

助産師の立場からは、スタッフと妊産婦との信頼関係や妊産婦の快適性確保の問題等いろいろと論議すべきことが山積していると思われる。お産で助かっても、家に帰って、虐待で子どもが亡くなったというような事態にならないようにしたいものである。

「お産は大病院で」というならば、その大病院には、バースセンターが設置されているような状況が前提条件であると考える。

快適性に欠かせない、生活面への支援や継続性の支援の視点が整っていなければならないと考える。小児科医や助産師、看護師等とのチームアプローチの視点も不可欠である。

まだ、中間報告なので、おそらく、次の研究テーマに取り上げられることを期待する。

日本助産師会としては、安全性確保を最優先課題とし、次のような対策を立てている。

１）助産所での取り扱い及び助産所からの搬送基準を確立する。（厚生科学研究青野班の作成したものを基準にしたものを現在調整中）

２）助産所の評価基準を作成し、助産所評価を行う。（現在、作成中）

3）嘱託医、救急対応等の課題に関して、検討会を持ち、産婦人科医師・小児科医師と助産師との間で検討する。3月末には報告書を出す。
4）安全対策室の開設。
5）救急対応能力強化のための助産師研修会の開催等。
今後とも、安全性と快適性を兼ね備えたケアのサポートに努めたい。

助産所研修記　その3

―技術主義からホリスティックな助産師へ―

聖路加看護大学大学院修士課程　母性看護・助産学専攻
今村朋子

以前、助産学会の学術集会でも講演されたロビー・デイビスフロイド氏が、「技術主義モデル・ヒューマニスティックモデル・ホリスティックモデル」の3つのお産を取り巻くパラダイムについて述べられていることは皆さんもよくご存知だと思います。

これまで病院のお産しか経験の無かった私が2ヶ月間の助産所研修によって得た最も大きなものは、自分の中にあるお産についてのパラダイムが大きく変化したことでした。

以前の報告でも述べたように、病院では矛盾に満ちた出産への医療介入に疑問を持ち、よりヒューマニスティックなお産を目指して取り組んでいましたが、その先にあるホリスティックなお産についてはピンとこなかったのが正直なところでした。実際に病院で働いていた頃の私は、いつもお産への不安を拭い去ることができず、女性の産む力を引き出す以前に、私自身が女性の産む力を心から信じられていなかったような気がします。そのため、助産師として「何かしないと…」という思いから、結局は出産をコントロールしようとしていました。そして医療介入に疑問を感じながらも、その医療技術の中で守られている安心感のようなものも持っていました。しかし、自分の力でお産をしようとする女性と助産師のみによって行なわれる助産所のお産は、すぐに手を伸ばせば医療技術が存在する病院とは大きく異なっていました。私は研修の中で、こうした助産所のお産のベースにあるのはホリスティックな考え方であることを強く感じました。

助産所で出会ったお産の中で、ある女性は「自分のペースで出ておいでー」と赤ちゃんに語りかけながらゆっくりと進むお産を待ち、陣痛がすーっとひいていく時には「あー心地いいわぁー」と陶酔感に浸っている中で、ただ寄り添う私自身もゆったりと心地よい感覚を感じていました。この時の私は、これまでと違ってお産の進行に対する焦りも不安も無く、そして「何かしないと…」と出産をコントロールしようという欲求も無く、目に見えない赤ちゃんのエネルギーに操られているような不思議な感覚を感じていました。医療技術の無い助産所のお産の中で、私ははじめて女性や赤ちゃんの力を心から信じ、妊娠期から関係を築いてきた「この人なら大丈夫」と、安心してお産に寄り添う体験をしました。

私にとっての助産所研修は、助産師としてのこれまでの自分について、自然や女性の力、そして自分自身の直感を信じることができず、どこか医療技術に寄りかかろうとしていたことに気づく体験でした。また、お産によって癒し、癒されるホリスティックな存在として、自分自身を深く見つめなおす機会となりました。今回、多くの気づきを与えてくださった助産所の皆様、そして素敵なお産を共に体験させてくださった女性たちに心から感謝しつつ、この研修記を終えたいと思います。

おわり

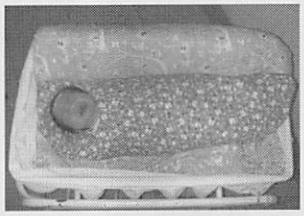
ＩＣＭ参加

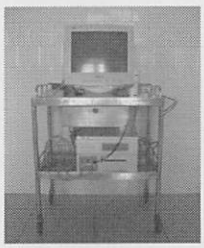
青年海外協力隊　助産師　中　河　亜　希

私は現在、青年海外協力隊の助産師として中国湖南省へ派遣されています。

中国に派遣される前から、2003年11月に香港でICMアジア太平洋地区の会議があることは知っていて、任地から香港は比較的行きやすく、せっかく中国に派遣されるのだから、ぜひ参加したいと思っておりました。SARSの発生で会議開催が危惧された時期もあったようですが、会議の時期も近づき、日本助産師会や日本助産学会等のHPで情報をチェックしたところ、ケイコンベンションさんが日本からのツアーをコーディネートされているのを知り、問い合わせて具体的な情報を得ることが出来ました。さらに、茨城県立医療大学の加納先生を紹介していただき、香港での日程の一部に同行させて頂きました。参加国の助産事情がわかると同時に、現在の日本の助産事情も知ることができましたので、私にとっては大変有意義な会議でした。

HPからの情報を参考にしてこの会議に参加したという人が私以外にも数名いて、インターネットをいうツールを使っての情報収集が一般的になってきたということと、今後もさまざまな形でインターネットを利用していく可能性を感じています。





香港シェラトンホテルで2日間にわたって行なわれたメインカンファレンスに参加しました。国際会議は初めての参加で、オープニングで各国からの参加者紹介には感動しました。助産師の再生：見直し、再定義、復活（Revitalizing Midwifery：Refocus, Redefine and Rebirth）をメインテーマに行なわれた基調講演や研究発表のなかで強く印象に残ったのは、オキシトシンの内分泌と情動の変化が連動している事、ケアによってオキシトシンの内分泌を促進させることで分娩の進行と産婦の情動によい影響をもたらすという事です。私の中国の配属先では帝王切開率約6割、分娩時のオキシトシン投与による誘発・促進はほぼ100％です。さらに看護や助産という概念のなかに「ケア」は重視されていないようです。このような現実を実感し、複雑な気持ちになりました。と同時に、日本のお産の良さをあらためて感じています。一方、中国の大都市での分娩を対象にした研究で、分娩時のケアを充実させることで分娩異常が減ったという結果も発表されており、中国国内でもお産とヒューマニゼーションという考え方が少しづつでも広がっていく事を期待しています。

お産を取り巻くさまざまな事はその国の文化や社会の影響を強く受けています。違う文化から見るとおかしいと思う部分もあります。現在の活動で感じることは、現地で行なわれている事と自分が実践してきた事が違うからといって、現地で行なわれている事を否定して、自分の考えを押し付けることはできないということです。中国は国レベルで決められた管理方法や手順があり、それを忠実に実施する事が正しい看護とされています。そのなかで妊産婦にとってよいこととは何か、「ケア」とは何かを伝える事も重要な課題のひとつだと考えています。

最後に、今回の会議参加でお世話になった方々にお礼を申し上げるとともに、会議で得たヒントをもとに残り約半年の活動を充実させていきたいと思います。

平成16年度　日本助産学会 研究助成公募

応募締切日：平成16年３月20日（土）

平成16年度の研究助成応募は、以下の要領にしたがって手続き下さいますようお願い致します。

【応募手続】

1．申請書の請求

氏名・所属機関（大学・学部等）の名称・送付先（大学名等の宛名も記入）を記入のうえ、郵送料として、90円切手を同封して下記宛にご請求下さい。（急ぎの場合は速達料270円切手も同封のこと）

2．応募方法

日本助産学会の申請書（コピーして使用も可）に必要事項を記入し、作成した申請書の原本を添付し返信用ハガキを同封し、下記にお送り下さい。

・申請書は、返信用ハガキに研究代表者名、郵便番号、住所を記載し、申請書の左上部　ホッチキス止めとしてください。

・申請書は受け取りを明確にするため、簡易書留でお送り下さい。また、３月10日以降に応募する場合は簡易書留速達にて送付願います。

・申請書は日本助産学会にて受付後、受領ハガキを送付いたしますので未着の場合はご確認願います。

3．研究課題

1）委託研究課題

本学会は「健やか親子21」の推進協力団体として登録しています。推進協議会における担当は、課題２「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」です。そこで平成16年度の委託研究課題の公募は、本事業に関連した研究課題とします。

詳しくは「健やか親子21」のホームページ

http://rhino.yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka/をご覧下さい。

2）学術奨励課題

助産学の発展、助産実践の改善と開発、その他母子保健領域の学際的調査、研究など。

4．応募締切日：平成16年３月20日（土）必着

5．助成規模：学術奨励研究助成２件以内、委託研究助成２件以内とする

学術奨励研究助成（30万円／１件当たり）委託研究助成（50万円／１件当たり）

6．応募に関しての留意点（下記の諸点に反する場合は書類不備で失格となります）

・申請書はワープロ直接印字（ワープロの文字の切貼りも可）または手書き（但し黒インク・黒ボールペンを使用）にて作成願います。提出された申請書は返却しません。

7．応募・お問い合わせ先（申請書の請求先）

日本助産学会事務局　〒102-0071 東京都千代田区富士見１丁目８番21号

電話・Fax：03-3221-0417　　E-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp

Joyful Midwifery With Women 2004 in tokyo

Japan Academy of Midwifery
第18回日本助産学会学術集会

第18回日本助産学会学術集会会長　松　岡　　恵

喜びとともにうまれる、その先の助産ケア。Joyful Midwifery with Women

■ 1．期　　日　2004年3月6日（土）～7日（日）

■ 2．プログラム概要および開催会場

● 第1日　3月6日（土）　東京大学安田講堂

会長講演　13：00～13：40
「喜びとともにうまれる、その先の助産ケア。」
・演者：松岡　恵（東京医科歯科大学）
・座長：宮中文子（京都府立医科大学）

招聘講演　13：40～15：10
「Joyful Midwifery with women in New Zealand」
・演者：Sandy Grey（ニュージーランド助産師協会会長）
・座長：堀内成子（聖路加看護大学　日本助産学会理事長）

総　　会　15：10～16：10

シンポジウム　16：10～18：00
「喜びにあふれた出産・育児のために」
・演者：赤山美智代（助産師ネットワークJIMON代表）
奥山千鶴子（NPO法人びーのびーの代表）
栗原　美幸（子育て支援サイト　子育てワハハ主宰）
・座長：平澤美恵子（日本赤十字看護大学）
片桐麻州美（神奈川県立保健福祉大学）

懇 親 会　18：30～20：30　学士会館（分館）

● 第2日　3月7日（日）　学術総合センター・学士会館（本館）

一般演題発表及び6つのワークショップ　9：30～11：30、13：00～17：00
●その先の助産ケアー連携から生まれる母子の安全保証
9：30～11：30（学術センター）

●その先の助産ケアー国際協力に通じる助産師の能力とは
13：00～14：50（学術センター）
●その先の助産ケアー助産の喜びを見いだす助産師を育てる
13：00～14：50（学士会館）
●その先の助産ケアー改めてエビデンスに基づいたアロマセラピーを学ぶ
15：00～16：50（学士会館）
●その先の助産ケアー母子相互作用の視点を毎日のケアに取り入れる
15：00～16：50（学術センター）
●その先の助産ケアー自己の理解と相互のエンパワメントにつなげる
9：30～11：30（学士会館）

■ 4．日程概要

	9:30	11:00	12:00	12:50	13:00	13:40	15:10	16:10	18:00	18:30	20:30
第1日 (3/6)	理事会	評議員会		会場オリエンテーション	会長講演	招聘講演	総会	シンポジウム		懇親会	
第2日 (3／7)	一般演題（口演・示説）		昼食		一般演題（口演・示説）						
	ワークショップ				ワークショップ						
	9:30	11:30			13:00				17:00		

■ 5．参加費について

1）学術集会参加費
①会員9,000円　②非会員10,000円　③学生（但し大学院生は除く）および一般5,000円
懇親会参加費　5000円

■ 6．会場へのご案内

6日：東京大学安田講堂（東京都文京区本郷7－3－1）
〔地下鉄〕　本郷三丁目（営団丸の内線・都営大江戸線）下車　徒歩10分
東大前（営団南北線）下車　徒歩10分
〔JR御茶ノ水駅〕　学バス　学07東大構内行　東大構内バス停（終点）下車
都バス　茶51駒込駅行　東43荒川土手行　東大正門前．下車
〔JR上野駅〕　学バス　学01東大構内行　東大構内バス停（終点）下車

7日：学術総合センター（千代田区一ツ橋2－1－2）
学士会館（本館）（千代田区神田錦町3－28）
〔地下鉄〕　竹橋（営団東西線）下車　徒歩5分
神保町（営団半蔵門線・都営三田線）下車　徒歩3分

■ 7．連絡先

〒113-8519 東京都文京区湯島1－5－45
東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科　リプロダクティブヘルス看護学分野
第18回日本助産学会学術集会事務局（清水）　TEL／FAX：03-5803-5347

第18回日本助産学会総会開催のご案内

会員各位

第18回日本助産学会総会を下記のように開催いたします。万障お繰り合わせのうえご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。

日本助産学会
理事長　堀内　成子

記

1．日　時　2004年3月6日（土）　15：10～16：10
2．会　場　東京大学　安田講堂
　　東京都文京区本郷7－3－1
3．プログラム
　1）平成15年度活動報告・収支決算報告審議
　2）平成16年度事業計画案・収支予算案審議
　3）第20回学術集会会長の承認

＊総会要綱は当日受付にてお受け取りのうえ、総会にお臨ください。
＊事務局本部コーナーにて、会費の受付け（平成16年度および未納年度）・入会案内書配布・学会誌バックナンバー販売等いたしますので、ご利用ください。

第18回日本助産学会評議員会開催のご案内

評議員各位

第18回日本助産学会総会を下記のように開催いたします。多事多端の時期ではありますが、ご出席のため万障お繰り合わせくださいますよう、ご案内申し上げます。

日本助産学会
理事長　堀内　成子

記

1．日　時　2004年3月6日（土）　11：00～12：00
2．会　場　東京大学　学士会館分館
　　東京都文京区本郷7－3－1（東大構内赤門隣り）
3．プログラム
　1）平成15年度活動報告・収支決算報告審議
　2）平成16年度事業計画案・収支予算案審議
　3）第20回学術集会会長の承認

委員会報告

国際委員会

第7回ICMアジア太平洋地域会議開催される

3年に1度のICM大会の中間時期として、2003年月27日～29日に香港にて上記会議が開催されました。本学会主催のツアーに9名が参加し、学会の派遣にて、国際委員会担当理事（加納）と国際援助システム委員会担当理事（毛利）もメンバーに加わりました。昨年春からのSARS事件の関連もあり日本からの参加者は合計20名弱程でしたが、プレコングレス等も含めて参加者は延べ約600名ということで大変盛会でした。日本助産学会では、助産師教育に関する三団体の見解を英文冊子（Midwifery Education : The View of 3 Midwives' Professional Organizations In Japan）を作成し配布し、海外の方々にも日本の助産師教育の発展にご理解を深めていただく機会を作りました。他、会議の詳細な報告は次号学会誌にて行なう予定です。

また、中国にて青年海外協力隊員をしている中河さんが、参加報告および派遣地域の様子を投稿して下さっているのでご参照下さい。　（加納記）

ICMニュースレターから（2003年11・12月号より）

1．南太平洋地域で助産学の学術集会を開催する

〈背　景〉

ニュージーランドは南太平洋地域に位置する国です。助産師と女性の協力の結果、1990年代に助産師が専門家としての自律を果たしました。法律改革も実施し、助産モデルによる妊産婦ケアが受けられる独特の母子保健システムを作り上げました。

ニュージーランドは先住民族であるマオリ族と1840年代に結ばれた平和条約をもとに両文化が併存しています。その条約はパートナーシップと参加、保護が主要項目となっています。ニュージーランドの助産専門家としての原理は、その条約を反映しています。また、女性とのパートナーシップもベースとなっています。

ニュージーランドの助産学は3年課程の大学での教育を唯一の方法とし、看護学と違う専門分野となっています。2003年にはHealth Practitioners Competency Assurance Act.（保健プラクテショナーの適正を保証する行動）にパスしています。このことは、助産に関する法律制定に関して権利のある助産評議会を設立のための法律改正につながっていきます。これ以前に1990年、看護評議委員会は助産の専門性を認め専門分野として認可しました。これを受け、ニュージーランドは、看護師とは違う妊産婦サービスの専門家としての助産師の立場が認められました。

〈助産師と女性の課題〉

世界での女性と助産師の課題からするとニュージーランドは特別な存在であると感じます。他の先進諸国と同様10代の妊娠率は高く、貧困によって影響を受ける女性や子どもの数は増加し、マオリ族の健康状態はヨーロッパ系ニュージーランドと比較して悪いなど妊娠中女性への悪影響は重要問題となっています。しかし、すべての女性は無料で第2次的産科バックアップを伴った1次的妊産婦サービスを受けられます。90％以上の女性は妊娠・出産・産褥期を通じて一貫してケアを提供してくれるLMC（lead maternity carer）を知り利用しています。75％以上のLMCは自律的に活動している助産師です。

ニュージーランドの助産師も他の先進国同様に出産時の医療介入の増加を懸念しています。13年間助産師の自律を実践してきた国にもかかわらず、医療モデルは今だに強力で支配的です。

多くの女性は第２次、第３次病院で出産しています。誘発や硬膜外麻酔を使用しての分娩同様に帝王切開率も上昇しています。ニュージーランドの現状や課題はニュージーランドと同等に保健サービスを利用できる豊かな社会でも興味深い内容であります。

アジア太平洋地域の助産師とニュージーランドの経験を共有し、課題を検討した最近の２つの学術集会を紹介します。

2003年７月、Joan Donley Midwifery Collaboration の助産研究フォーラムとクライストチャーチでのイギリス連邦の看護と助産運営委員会主催のアジア太平洋地域のワークショップです。両集会は同時期に開催されました。その結果多くのアジア大西洋地域の助産師は両学術集会に参加しました。サモア、バヌアツ、クックアイランド、マレイシア、インドネシア、オーストラリアから代表者の参加もありました。

〈研究協力〉

Joan Donley Midwifery Collaboration はニュージーランド助産師協会（NZOCM）の「実践のためのエビデンス」を確立するための部門です。国内の助産研究の開発をサポートし、協同的アプローチを推進する役割があります。この研究フォーラムは、研究成果や進行中の調査をニュージーランドや他の国々の仲間に発表する機会となりました。助産研究の歴史は浅いにもかかわらず、発表の量、質、幅は圧倒的でありました。プログラムは、すべての参加者がすべての発表を聴くことができるようにされていました。発表に対して会場からの討議と質問が続きました。興味深い討議としては以下のトピックスが含まれます。

・パルトグラムの開発歴史の検討
・新人助産師の教育
・10代妊産婦への妊産婦教育のニーズ
・被膜児分娩
・水中出産
・科学技術の使用と結果として生じる助産師技術の低下

すべての発表に共通する内容は世界中の助産師が検討していかなければならない正常出産を支援する助産師の役割についてでした。

労働力と人的資源

英連邦運営委員会のワークショップは労働力と人的資源についての課題でした。ニュージーランドの助産モデルを含む労働力について発表がありました。ニュージーランドモデルには、助産師の労働力不足における人材の募集、確保、マネージメントについてです。助産師による妊産婦担当制は、助産師の高い満足を得ることができます。その結果人材募集と確保はある程度まで解決できました。また、助産師の自発的な地域社会での可動性が高まることにより女性の１次的サービスの利用が向上します。しかし、保健医療環境の違いから、すべての国でこの方法が適すわけではありません。

助産法規の100年

両学術集会はアジア太平洋地域の助産師達のネットワーク作りと関係つくりに最適な機会でありました。我々はニュージーランド助産法規の100年を祝うために、2004年のニュージーランド助産師協会の会議に近隣諸国の多くの助産師を招待するために連絡をとりあっています。また会議に参加し祝ってくれる助産師を世界各国から招待いたします。

2004年　ニュージーランド助産師協会の全国会議
過去：未来への入り口
助産法規の100年を祝う

開 催 場 所：ウエリントン市、ニュージーランド
開 催 月 日：2004年９月14日～18日
情報サイト：www.nzcom.org.nz/index.cfm/abstracts
連　絡　先：E-mail　Robyn Maude R.maude@massey.ac.nz

第６回世界周産期学会　大阪大会開催

国際委員の大石より、第２面に2003年９月13日～16日に開催された第６回世界周産期学会の紹介が写真入で英文にて報告されています。
（学会の内容については、前回本ニュースレター報告を参照）　（永瀬記）

第５回日本母子ケア研究会のご案内

テーマ：哺乳量から見直す母乳育児支援

☆**日　時**　平成16年６月13日（日）　10：00～16：00（開場　９：20～）

☆**場　所**　銀座ヤマハホール
中央区銀座７丁目９－14　代表03-3572-3139

☆**主　催**　日本母子ケア研究会

☆**プログラム**

本当は母乳の分泌が良にもかかわらず、「母乳が足りない」「体重が増えない」とミルクを指示され、母乳育児を諦めざるを得ない母親たちがたくさんいます。

いったい、母乳はどのくらい飲んでいれば「正常」といえるのでしょうか？そもそも、母乳の哺乳量に基準値が存在するのでしょうか？目に見えない母乳の哺乳量……母乳育児を推進する立場から、今一度、哺乳量の問題をどう取り扱っていくか、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。　会長　松原まなみ

☆**申込み方法**　fax／03-3845-5594（24時間）

FAX又は郵送にて、参加内容を申込み、下記口座に参加費の払込みをして下さい。
確認後、参加証をお届け致しますので、当日受付にご持参下さい。
（郵便の場合）〒110-0011 東京都台東区三ノ輪2-8-2　日本母子ケア研究会事務局　宛

☆**参加費**

会員優先参加　６／20まで　¥5,000　５/21以降は¥6,000
※H14年度（H11.9.1～H15.8.31）年会費未納の方は、非会員扱いになります。
非会員　¥7,000
当日（会員・非会員とも）　¥8,000（満員の場合お断りする場合があります）

お知らせ

International Confederation of Midwives Congress 2005:
"Midwifery: Pathways to Healthy Nations" 25th-28th July 2005
Brisbane Convention & Exhibition Centre
Queensland, Australia
www.midwives2005.com
midwives2005@meetingplanners.com.au

募金のお願い

本学会では、下記の募金を受付けています。会員の皆様のご協力をお待ちしています。振込用紙を同封いたしましたのでご利用ください。

＊ＩＣＭスポンサー・ア・ミッドワイフ（国際基金）の募金について
発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。一口2,000円です。

振替口座番号：00190-8-710931
加 入 者 名：日本助産学会国際基金

平成14年３月以降以下の方々にご寄付いただきました。(敬称省略・順不同)
村上睦子・宮中文子・内藤和子・浅生慶子・河相佳子・松岡　恵
山西みな子・高田昌代・島田啓子・田淵紀子・坂井明美・川原淳子
ご協力ありがとうございました。

＊セーフマザーフッド基金の募金について
世界で妊婦死亡率および罹病率が最も高い地域における助産の知識の発展を支援するための募金です。一口1,000円です。

振替口座番号：00240-8-6818
加 入 者 名：日本助産学会 ICM セーフマザーフッド基金

平成14年３月以降以下の団体・方々にご寄付いただきました。(敬称省略・順不同)
徳島大学国際助産師の日記念事業促進会・坂井明美・川原淳子
ご協力ありがとうございました。
(会計：岸田)

平成16年度会費（10,000円）納入についてと、評議員選挙に関するお知らせ

次年度の年会費納入を受付けております。

◆年会費引落の方は、２月23日が引落日です。口座の残高が不足ですと引落しが出来ません。その場合は後日郵便振込用紙での納入になります。

◆会費納入方法が郵便振込の方には、振込用紙を同封しましたのでお早目のお振込みを、お願いいたします。

年会費振込先は下記（今回振込用紙多種ありますので、ご注意ください）
振替口座番号：00100-5-83244
加 入 者 名：日本助産学会

◎郵便振込から、年会費自動引き落としへの変更をご希望の方は事務局までご連絡ください。

平成16年度は、次期評議員および理事・監事の選挙の年ですので、次の事をご承知おきください。

まず、平成16年度会費を６月末（厳守）までの納入が必要です。

- 選挙権は、平成16年度会費を６月末までに納入済みの普通会員に与えられます。
- 被選挙権は、平成14年度に入会し平成14・15年度会費が納入済みで、平成16年度会費も６月末までに納入が済んでいる普通会員に与えられます。

平成16年度までの年会費をお早目にお納めください。
なお、納入状況についてのお問合せは下記事務局までお願いいたします。

<連絡先>

日本助産学会事務局
〒102-0071 東京都千代田区富士見１－８－21　東京都助産婦会館内３階
TEL&FAX：03-3221-0417　　E-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp